

2024 年度:こども園自己評価の報告書

原田こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	「人と豊かに関わり合い主体的に遊ぶ環境作りをめざして」をテーマに、どの子ども生き生きと遊び、生活していける人的、物的環境を考え取り組んだ。 ・年3回のアドバイザー派遣研修では講師より具体的な助言を受けながら、子どもの集団遊びは、クラスの現状に合わせて取り入れ、同じことを繰り返すことの大切さや遊びの中で友達とつながっていくことはということなのかを考える機会を持ち、各クラス実践報告をすることで、保育の質の向上に向けて学び合うことができた。又、アタッチメントの学習から子どもへの寄り添いの精度を上げる関わりや、保護者対応の課題について学び共有する機会となる。 ・今年度は校区人権連絡会や評議員会で実践報告の機会を受けたことで、園の担い手として主体的な立場で発信する役割意識を持つことができた。
健康支援	・園児一人一人の健康状態の把握を家庭と連携しながら行った。それと同様に職員一人一人が自らの健康管理に努めると共に、施設の消毒等感染拡大防止に努めた。 ・毎月の「ほけんだより」で感染症予防の啓発や体のことなど保健衛生の情報発信を行い、身体計測、各検診や検査の時には、必ず目的と共に健康安全指導、生活習慣、食育等に関する保健指導を実施した。 ・歯みがき指導、体の話、手洗い指導、プライベートゾーン等、子どもの実態に即し年齢に応じた話をする事で、健康に対する関心を持てるようにし、自分自身又は友達の体を大切にすることへの意識を高めた。
安全指導・危機管理	・改修工事後、変更した避難経路を必要に応じて改善し周知していく。 ・毎月初めに安全点検日を設け、園庭の固定遊具や保育室等の点検を行い、不具合のある場所には対策を講じ、全職員で確認していった。 ・毎月、火災や地震、不審者対応等の避難訓練を実施し、火災時の2次避難として原田小学校まで避難する総合訓練も行った。今年度2回、北消防署立会いのもと、避難訓練を実施した。 ・交通安全の指導は、警察署職員に来園してもらい園庭に模擬道路を作り園外遠足や登降園時に子ども達が交通ルールを意識できるように努めた。 ・ローリングストックを実施し、災害を想定した避難訓練を行い、防災について子ども達と共に考え、食へのこだわりをもつ子どもへの配慮として備蓄用食品について考える機会を持ち、意識向上につながった。
食育の推進	・畑やプランターや室内でも育てられる野菜を各クラスが年間計画をたて栽培し、収穫できたことにより子ども達の興味が広がり、年齢に応じたクッキングにつながり食への興味が持てた。 ・給食の野菜の皮むきや包丁で切る、キノコを手でほぐす等年齢に応じた参加を継続してきた。年長児はこれらを積み重ね、米洗いからご飯を炊き、自分達でカレー作りに挑戦した。 ・日々の生活の中で、各年齢にあった取り組みを考え、年4回食育ボードで保護者に写真と共に子ども達の姿を伝えていった。 ・環境学習で食品ロス・ごみ減量への関心を高めた。
子育て支援（在園児および地域）	・保護者との信頼関係を築くために、個人懇談、連絡ノート、写真等によるドキュメンテーションの掲示、必要に応じて送迎時に会話を積み重ね相談対応にも応じてきた。配信アプリによる活動の記録やクラス便りを各クラス配信し在宅でも見てもらえるようにしたことで、家庭内で子どもの姿を共有・共感してもらえた。 ・保護者講演会では、『子育てで大事にしたいアタッチメントの話』について講師を招聘して話を聞いた。子どもが不安な時大人の関わり方で安心感を育むことが繰り返される日常の中で大切なことを改めて確認、実感できた。園内研修にも来ていただいたことで、保護者と職員が同じ学びを共有共感でき、保育、子育てを見つめ直し、子ども達の気持ちへの理解につながったと実感する。 ・校区連絡会を開催し情報交換するとともに、職員が子育てサロンに出向き地域の親子と触れ合った。

インクルーシブ教育保育	・保護者と連携を取りながら「共に育つ」の視点から、一人一人の育ちだけでなく、友達と関わり合うことでどんな力をつけてきたのか、クラス集団の中での子どもの育ちを確認していった。そして、次の課題を明確にしたうえで必要な支援の方法を職員間で共有していった。 ・保護者支援の多様で細やかな手立て、コミュニケーションから信頼関係を築いてきた。
職員の資質の向上	・人権研修の中で、多文化共生の視点で言葉のわからない国で被災したらと疑似体験を行い全職員でわかりやすい環境について考えた。子どもの思いにたってそれぞれが自分の保育を振り返り、保護者支援、職員関係づくりを考える機会を作った。 ・様々な取り組みに対して職員がチームで対応する積極性が見られる。 ・アドバイザー研修では、集団遊び、アタッチメントにおいてもスモールステップで保育教育を進めていくこと等を学び、子ども達が主体的に人とつながる力を育んできたという実感が各職員の実践報告からうかがえた。保護者に配信アプリでの配信を始め、各クラスの取り組みを知って頂き一定の効果は感じる。
幼保こ小中の連携・接続	・幼保こ小校区連絡会の中では、『構えない交流』について各園での取り組みを報告し合い、様々な視点からの保育教育を学ぶ機会となった。対話のある保育、授業から子どもの学びが生まれることを確認できた。 ・『遊びの中の学び』や非認知能力を読み取り育てる保育者の質の向上が問われ、次の保育展開に必要な視点の振り返りにつながる。 ・就学に向けて年長クラスが、小学校探検又は交流する機会を持ち就学への不安が期待感につながる機会となる。
評議員会	・評議員会では、各行事を見ていただき、その後の意見交流を積み重ね園の現状や地域の共通課題、園から学校への接続を確認し合う機会となる。引き続き地域が情報を共有しながら連携していくことを確認しあった。 ・保護者アンケートの結果を受け止め、子育てが楽しめないという回答の背景には子育ての協力者がいないと感じている方がいることを地域でも共有し、今後も保護者が子どものことを相談できる関係を築いていけるよう努めていきたい
その他	・行事の持ち方をコロナ禍前に全て戻すのではなく、子ども達の現状に即した運動会や生活発表会・保育参加等の保護者参加の行事を行った。乳児に関しては、ビデオ視聴をとり入れたクラス懇談会を開催し、子どもの成長を感じ合える機会を作った。園内異年齢交流、地域との出会いを大事に人間関係の育みに努めた。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
季節、伝統行事の取り組み	これまでも行事の取り組みの際に職員で話し合ってきたが、もう 1 度『人権』『命』の視点で各取り組みを見直し、子ども達に『伝えたい思い』『育みたい力』について各職員が意見交流し、その都度改善しながら取り組んでいきたい。
保育実践とドキュメンテーション	子ども主体の保育を実践し、人とつながる力をどう培っているのかをドキュメンテーションを通して保育をよりわかりやすいよう保護者に発信していく。ドキュメンテーション作成の学びを深める。

令和 7 年（2025 年）3 月 31 日

豊中市立 原田こども園

園長名 岡田 裕子